

施策番号 2-1-1	施策名 学校教育の充実	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり			
		政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実			
	主管課	教育推進課	課長名	有澤勝昭	内線	441
	施策関係課					

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果
地域社会と連携しながら信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒	・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り開くための資質・能力を身につける					児童生徒が社会に出たときに自立できる
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度(予想)	2022年度目標	
① 「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	75.8	74.0	77.1	79.0	80.0	
② 「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.2	77.4	75.8	77.0	78.0	
③ 「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	85.7	87.7	85.2	88.0	90.0	
④								
成果指標設定の考え方	成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、「豊かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。							

## 2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算
施策事業費(千円)	907,458	895,658	1,184,039
人工数(業務量)	6.4412	7.0169	7.5902

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標③は停滞したが、①と②は上昇。⇒これは、小学校全学年での35人以下学級編成、授業改善推進チームの組織的定着、特別支援教育の充実による効果が伺え、全体的に成果は向上したと考える。
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①、②の指標については、小学校全学年での35人以下学級編成や授業改善推進チームの組織的定着、地域コーディネーター複数配置による特別支援教育の充実、更には、令和3年度から開始する児童生徒一人一台端末の配布によるICT教育の充実により、個に応じた学習支援を継続することで目標達成を目指す。 ③の指標については、栄養教諭による全校全学級を対象とした食育指導の継続や令和3年度より開始した「食農教育」の充実により目標達成を目指す。
(2) 施策の成果評価に対する2020年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	①小学校・中学校施設維持管理事業 ②児童生徒支援事業 ③小学校・中学校教材・教具整備事業 ④学校給食管理運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「①」⇒令和2年3月に策定した「芽室町学校施設等長寿命化計画」に基づき長寿命化に向けた効率的な工事実施を進めた。特に、令和2年度はICT教育推進のため校内の通信ネットワーク環境の整備を進めた。 ・「②」⇒小学校全学年35人以下学級編成のため、町独自で臨時教諭を配置した。特別支援教育の推進のため、地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置し、個に応じた学習支援を実施した。 ・「③」⇒学校におけるICT教育推進のため、令和2年度に児童生徒一人一台の端末を整備すると共に、教員用パソコンについても一斉更新を行った。 ・「④」⇒栄養教諭による全校全学級の食育指導を実施すると共に、芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」の提供や「食農教育」の充実を進めた。		

### (3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <p>①学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応。(R1:芽室町学校施設等長寿命化計画策定)／②「社会に開かれた教育課程」の実現を重視した新学習指導要領への対応。(R2:小学校、R3:中学校で全面实施)／③特別な支援や配慮を必要とする児童生徒の増加への対応。(R2:地域コーディネーター複数配置)／④「学校におけるICT環境整備方針(GIGAスクール構想)」への対応。</p> <p>《今後の予測》</p> <p>①個別施設毎の長寿命化計画の策定に基づく計画的整備が必要である。／②「地域とともにある学校づくり」を推進するためコミュニティ・スクールの取組が必要である。／③地域コーディネーター複数配置、教育活動指導助手、学校支援員の充実による発達支援システムの推進が必要である。／④校舎内における通信環境の整備、児童生徒一人一台端末を整備を行い、ICT環境の活用を進めていく必要がある。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域とともにある学校づくり」としてのコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進。(R1:学校運営協議会制度開始)</li> <li>・「GIGAスクール構想」の実現に向けたICT計画の策定。(R2:芽室町教育委員会ICT整備・活用指針策定)</li> <li>・食農教育の推進を踏まえた「めむろまるごと給食」の事業見直し。</li> </ul>

#### 5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> <li>●新学習指導要領実施など教育環境の整備に向けた対応(児童生徒支援事業、小学校・中学校教材・教具整備事業)             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒外国語活動・外国語科の推進に向けた英語指導助手の配置や、プログラミング教育等のためのICT教育環境(GIGAスクール構想)の整備</li> <li>⇒少人数学級の継続や発達支援システムと連携した特別支援教育の充実に向けた人員の増員</li> </ul> </li> <li>●学校施設などの環境整備(小学校・中学校施設維持管理事業)             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒芽室町学校施設等長寿命化計画に基づく老朽化改修と多様なニーズに対応した施設整備</li> </ul> </li> <li>●学校給食の提供や食育指導に向けた体制の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒児童生徒数の減少に伴う道教委配置の栄養教諭の減員に伴う対策と体制の充実及び食農教育の実施</li> </ul> </li> </ul>
--

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置し、個に応じた学習支援の実施と食農教育の充実により、前期実施計画策定時と比較して前進した。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 実現した</li> <li>B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</li> <li>C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した</li> <li>D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</li> <li>E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</li> </ul>				

#### 7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	地域コーディネーターの配置や、タブレット端末の整備等から「C前進した」と評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	・タブレットを入れる袋や持ち帰りバックの回転を学校が町で考えてほしい。／・(冬休み等の家庭学習で)学習進度が遅れないように頑張っていたきたい。また、タブレットの使う時間が増えると視力の低下など健康面での影響もあると思うので注意していただきたい。／・時代・社会の変化により、求められる資質や能力が変化している中、新たな成果指標が必要なのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 実現した</li> <li>B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</li> <li>C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した</li> <li>D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</li> <li>E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</li> </ul>				